

要旨

本発表では、日本語の Comparative Deletion として扱われてきた構文には、実は2種類のもものが混在しているため、その2つを区別して分析を進めなければならないことを示す。Kikuchi (1989)や Ishii (1991)は、日本語の Comparative Deletion も英語の Comparative Deletion と同様に空演算子の移動が関わっていると主張していたが、比較されている度合いの表現が連用形である場合、実は、ヨリ句内の空所の存在が義務的でない。このことは、英語の Comparative Deletion とは異なり、日本語の場合には空演算子の移動が関わらない場合もあるということを示している。

1. はじめに

日本語においては、次の(1)のように、助詞のヨリを用いて比較構文を作ることができる¹。

- (1) a. ジョンは [NP トム]より (も) 賢い。

[Kikuchi 1989: 1, (1a)]

- b. この竿は [NP 規定の 10cm]より長い。

[Hayashishita 2009: 79, (34)]

- c. メアリーは [NP ジョン]より長い本を読んだ。

[Hayashishita 2009: 69, (11)]

- d. ジョンが [VP メアリーが持っている]よりたくさん本を持っている。

[Kikuchi 1989: 1, (1c)]

(1)のように、日本語の比較構文には、ヨリの直前が名詞である文と動詞である文とがある。このうち、(1d)のようにヨリの直前が動詞である文は、しばしば Comparative Deletion と呼ばれ、英語の Comparative Deletion と同じように分析されてきた。これに対して本発表では、これまで Comparative Deletion とみなされてきた日本語の文には、ヨリ句内に空所が必要なものと空所が不必要なものとの2種類が混在しており、それぞれ異なる分析をしなければならないということを主張する。

¹ ヨリを用いた文としては、(i)のような文もあるが、本発表では、2つの事物の度合いを比較し、その大小を評価する文に限って考察している。

(i) 何もせずにここで待っているより、探しに行こうよ。

2. 英語の Comparative Deletion

英語では、Bresnan (1973, 1975)以来、しばしば次の3つの比較構文が区別されてきた。

- (2) a. **NP-Comparative:** John is smarter than [Mary].
- b. **Comparative Ellipsis:** John wrote more papers than [Mary did].
- c. **Comparative Deletion:** John wrote more papers than [Mary wrote].

この3つの構文の中で、Comparative Deletion は wh 移動の特性を示すとされている。

(3) 空所の義務性

- a. John wrote more papers than [Mary wrote [ϕ]].
- b. *John wrote more papers than [Mary wrote [papers]].
- c. *John wrote more papers than [Mary wrote [novels]].

(4) Wh-islands

- a. Mercury is closer to the sun than [I thought it was [ϕ]].
- b. *Mercury is closer to the sun than [I wondered [_{wh-island} whether it was [ϕ]]].
- c. *Mercury is closer to the sun than [I knew [_{wh-island} who said it was [ϕ]]].

[Kennedy 1997: 184, (135)-(137)]

(5) Complex NPs

- a. Hale-Bopp was brighter than [Carl claimed it would be [ϕ]].
- b. *Hale-Bopp was brighter than [_{Complex NP} Carl's claim that it would be [ϕ]].
- c. *Hale-Bopp was brighter than [_{Complex NP} a paper that said it would be [ϕ]].

[Kennedy 1997: 184-185, (138)-(140)]

Comparative Deletion に wh 移動が関わるとすれば、(3)のように、痕跡があるはずの位置に「papers」や「novels」といった語が現れると非文になることも当然となり、(4b,c)および(5b,c)のように、than の後続部分に wh 句や複合名詞句が含まれると容認性が低くなることも予測できる。これらの特性を踏まえ、Comparative Deletion には wh 移動が関わっていると考えられてきた (Chomsky 1977)。

3. 日本語の Comparative Deletion

3.1. 空所の義務性

Kikuchi (1989)は、日本語の Comparative Deletion についても、ヨリ句内に空所が必要であるとして、次の例を挙げている。

- (6) a. トムは[ジョンが φ 読んだ]よりも本をたくさん読んだ。
 b. *トムは[ジョンが それを 読んだ]よりも本をたくさん読んだ。
 c. *トムは[ジョンが それらを 読んだ]よりも本をたくさん読んだ。
 d. *トムは[ジョンが 本を 読んだ]よりも本をたくさん読んだ。

[cf. Kikuchi 1989: 4, (12)]

また、Kikuchi (1989)では、日本語の Comparative Deletion も下接の条件に従うとして、次の例を挙げている。

- (7) a. *[[Complex NP その机で e_i [e]読んでいた人_i]をジョンが殴った]よりもポールはたくさん本を読んでいた。

[Kikuchi 1989: 4, (14)]

- b. *[[Adjunct ジョンが[e]読んでいた時に]地震が起きた]よりもポールははるかにたくさん本を読んでいた。

[Kikuchi 1989: 4, (15)]

- c. *[[みんなが[*wh*-clause 何故ポールが[e]読んだか]不思議に思ってた]よりもジョンはたくさん本を読んでいた。

[Kikuchi 1989: 6, (22)]

これらの観察に基づいて、Kikuchi (1989)および Ishii (1991)は、日本語の Comparative Deletion にも空演算子の移動が関わっていると主張した。

ところが、ここで注目したいのが、(8)の文である。(8)は、(6)と同様にヨリが動詞に直接後続している比較構文であるが、ヨリ句内に空所がなくても容認可能である。

- (8) a. ジョンが[メアリが φ 買った]よりたくさん、専門書を買ってきた。
 b. ジョンが[メアリが 漫画本を 買った]よりたくさん、専門書を買ってきた。
 c. ?ジョンが[メアリが 専門書を 買った]よりたくさん、専門書を買ってきた。

例えば(8b)では、ヨリ句が「メアリが漫画本を買った」というように、空所がなくても容認可能であり、この文全体としては、「メアリが買った漫画本の冊数」に比べて「ジョンが買った専門書の冊数」の方が多いう意味になっている。つまり、このような例においては、ヨリ句内の空所の存在は、義務的でない。もちろん、(8a)のようにヨリ句内に空所が存在することも許されるが、これは通常見られる空代名詞であると考えればよい。これが痕跡ではなく、空代名詞であるという証拠としては、(8a)のφの解釈が必ずしも固定していないということがあげられる。例えば、(8a)の文だけを提示されると、後ろにある「専門書」に解釈が引っ張られるがゆえ、ヨリ句

内の空所の解釈も「専門書」になるのが普通かもしれない。しかし、たとえば、メアリがいつも漫画本をたくさん買うことが前提となっており、そのために部屋が狭くなるという話をしていたあとで、ジョンについて、買ってくるものは専門書でその点はメアリとは異なるが、部屋が狭くなるという点でさらに上回っている、ということが言いたい場合には、(8a)でヨリ句内の空所は「専門書」ではない解釈が可能になる。このように、それが何を指しているか統語的な制限を受けることがないのは、空代名詞の特徴である。

もちろん、常に空所がなくてもよいというわけではない。(8)とは異なり、(9)の場合は、ヨリ句内に空所が必要である。

- (9) a. ジョンが[メアリが 買った]よりたくさん の専門書を買ってきた。
b. *ジョンが[メアリが 漫画本を 買った]よりたくさん の専門書を買ってきた。
c. *ジョンが[メアリが 専門書を 買った]よりたくさん の専門書を買ってきた。

(9b,c)のように、空所の代わりに「漫画本を」や「専門書を」としてヨリ句内に比較の対象となっている要素が現れると、その文は容認不可能となってしまう。さらに、(9a)の場合、上で示したような文脈に置いてみても、空所が「漫画本」に相当する解釈は容認されない。この場合の空所は「専門書」としての解釈しか許されないのである。

3.2. 連用形 vs. 連体形

(8)と(9)は、ほとんど同じ文であるが、「たくさん」が連用形になっているか連体形になっているかという点のみにおいて異なっている。

- (8) a. ジョンが[メアリが 買った]よりたくさん、専門書を買ってきた。
b. ジョンが[メアリが 漫画本を 買った]よりたくさん、専門書を買ってきた。
c. ?ジョンが[メアリが 専門書を 買った]よりたくさん、専門書を買ってきた。
- (9) a. ジョンが[メアリが 買った]よりたくさん の専門書を買ってきた。
b. *ジョンが[メアリが 漫画本を 買った]よりたくさん の専門書を買ってきた。
c. *ジョンが[メアリが 専門書を 買った]よりたくさん の専門書を買ってきた。

そこで他の例も考えてみると、何の度合いについて比較されているかを指定する表現が連用形であるか連体形であるかで、空所が無い場合の容認性ははっきりと分かれることがわかる。次の(10)から(15)に示すように、何の度合いについて比較されているかを指定する表現が連用形るときには空所が不必要であり、それが連体形るときには空所が必要となる。

(10) 連用形

- a. トムが[キャシーが φ 書いた]より丁寧に、御礼状を書いた。
- b. トムが[キャシーが 招待状を 書いた]より丁寧に、御礼状を書いた。
- c. ?トムが[キャシーが 御礼状を 書いた]より丁寧に、御礼状を書いた。

(11) 連体形

- a. トムが[キャシーが φ 書いた]より丁寧な御礼状を書いた。
- b. *トムが[キャシーが 招待状を 書いた]より丁寧な御礼状を書いた。
- c. *トムが[キャシーが 御礼状を 書いた]より丁寧な御礼状を書いた。

(10)は、「キャシーが書いたもの」の「丁寧さ」に対して、「トムが書いた御礼状」の「丁寧さ」が上回っている、ということ述べた文であり、(11)は、「キャシーが書いた御礼状」の「丁寧さ」に対して、「トムが書いた御礼状」の「丁寧さ」が上回っている、ということ述べた文である。そして、「丁寧に」なのか、「丁寧な」なのかで、これだけ容認可能性に対立が見られるのである。

(12) 連用形

- a. マイクが[ヘレンが φ 開いた]より華々しく、パーティを開いた。
- b. マイクが[ヘレンが 結婚式を 開いた]より華々しく、パーティを開いた。
- c. ?マイクが[ヘレンが パーティを 開いた]より華々しく、パーティを開いた。

(13) 連体形

- a. マイクが[ヘレンが φ 開いた]より華々しいパーティを開いた。
- b. *マイクが[ヘレンが 結婚式を 開いた]より華々しいパーティを開いた。
- c. *マイクが[ヘレンが パーティを 開いた]より華々しいパーティを開いた。

(12), (13)の場合も同様に、意味としてはそれぞれ「ヘレンが開いたものの華々しさよりも、マイクが開いたパーティの華々しさが上回った」「ヘレンが開いたパーティの華々しさよりも、マイクが開いたパーティの華々しさが上回った」という意味であり、「華々しく」なのか「華々しい」なのかで空所の義務性が異なっている。

(14) 連用形

- a. リンダが[ウィルが φ 固定した]より頑丈に、戸棚を取り付けた。
- b. リンダが[ウィルが 本棚を 固定した]より頑丈に、戸棚を取り付けた。
- c. ?リンダが[ウィルが 戸棚を 固定した]より頑丈に、戸棚を取り付けた。

(15) 連体形

- a. リンダが[ウィルが φ 購入した]より頑丈な戸棚を取り付けた。
- b. *リンダが[ウィルが 本棚を 購入した]より頑丈な戸棚を取り付けた。
- c. *リンダが[ウィルが 戸棚を 購入した]より頑丈な戸棚を取り付けた。

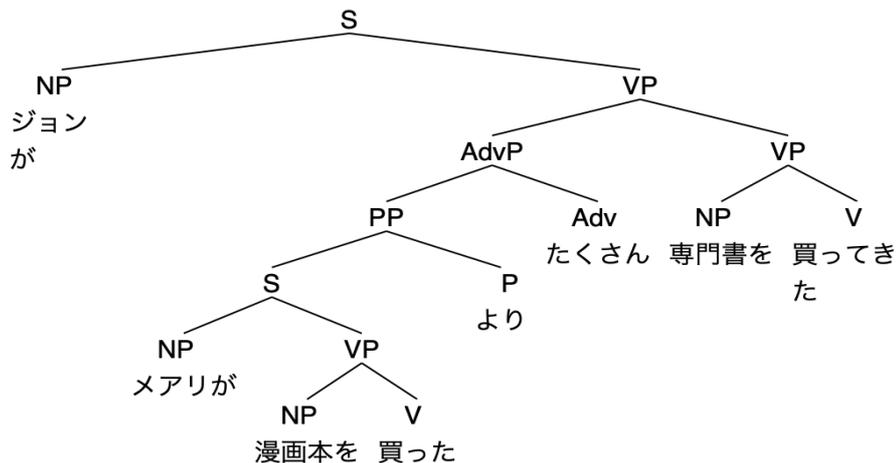
(14), (15)も同様に、意味はそれぞれ「ウィルが固定したものの頑丈さよりも、リンダが取り付けた戸棚の頑丈さが上回った」「ウィルが購入した戸棚の頑丈さよりも、リンダが取り付けた戸棚の頑丈さが上回った」という意味になり、「頑丈に／頑丈な」という違いが重要になっている。

4. 考察

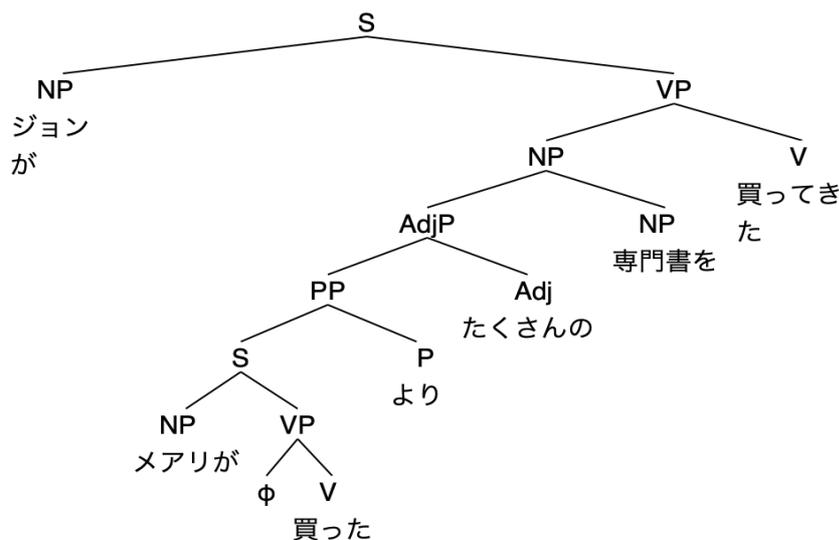
以上述べてきたように、何の度合いについて比較されているかを指定する表現が連体形の場合は、ヨリ句内に空所を必要とする。したがって、この場合については、Kikuchi (1989)や Ishii (1991)が主張するように、空演算子の移動が関わっていると分析することも可能だろう。これに対して、何の度合いについて比較されているかを指定する表現が連用形の場合は、ヨリ句内に空所が不要であるので、この構文に対して空演算子の移動分析を適用することはできない。

もちろん、問題となるのは、(i) 連用形の場合には、どのようにして、この解釈が可能になっているのか、そして、(ii) 連体形の場合に、どうして(i)の方策を利用することができないのか、ということである。現時点では、まだ(ii)に対する十分な回答はないが、注目してほしいのは、連体形か連用形かで文全体の構造が次のように大きく異なっているという点である。

(16) 連用形の場合の構造



(17) 連体形の場合の構造



つまり、基本的にヨリ句は何の度合いについて比較されているかを指定する表現と Merge し、その度合いの参照点を指定する働きを持つが、連用形の場合は、その度合いがデキゴト (VP) の持つ特性であり、連体形の場合は、その「度合い」がモノ (NP) の持つ特性である、という点が異なっているのである。このように、これまで日本語で Comparative Deletion と呼ばれてきた文は、モノの特性について語る構文とデキゴトの特性について語る構文を分けて考察するべきである。

参考文献

- Bresnan, Joan (1973) Syntax of the Comparative Clause Construction in English. *Linguistic Inquiry* 4-3: 275-343.
- Bresnan, Joan (1975) Comparative Deletion and Constraints on Transformations. *Linguistic Analysis* 1: 25-74.
- Chomsky, Noam (1977) On Wh-Movement. In: Peter Culicover, Thomas Wasow, and Adrian Akmajian (eds.) *Formal Syntax*, 71-132. New York: Academic Press.
- Ishii, Yasuo (1991) Operators and Empty Categories in Japanese, Doctoral dissertation, The University of Connecticut.
- Ishii, Yasuo (1993) On Certain Differences in Comparative Deletion Between English and Japanese. *Japanese/Korean Linguistics* 2: 375-393.
- Kennedy, Christopher (1997) Projecting the Adjective: The Syntax and Semantics Gradability and Comparison, Doctoral dissertation, University of California, Santa Cruz, distributed by SLUG Pubs, USCS.
- Kikuchi, Akira. (1989) Comparative deletion in Japanese. Unpublished manuscript. Yamagata university.